

# 大淀川学習館周辺にいる生き物の効果的な情報発信について

## ～来館者のニーズに合わせた生き物マップ作成を通して～

大淀川学習館  
主事 吉田 昂史

大淀川学習館  
主幹兼業務係長 日高 謙次

大淀川学習館  
主事 日高 由貴

### 【要 約】

本研究では、大淀川学習館（以下、当館とする）周辺に生息する昆虫を来館者に知ってもらうために、来館者がどの昆虫が好きなのかアンケートを実施し、周辺の昆虫を採集・記録し、当館周辺に生息する生き物に関するマップを作成した。今後はマップを館内に掲示して、活用していく。

### はじめに

当館では、来館者が観察ステーション等で展示生体を観察している際に、展示生体の捕獲場所や特定の生き物がどこで捕れるか等について質問されることが度々ある。しかし、生物担当職員が不在時は、回答に苦慮することがある。館内に展示している生き物は、生物担当の職員が展示設営しているため、担当職員がいなくても来館者に向けて、どこにどのような生き物が生息しているか、分かるような工夫をする必要がある。

そこで、館内に当館周辺で見つけた生き物について、来館者が一目で見て、生息している場所や、食べ物等が簡単に分かるようなマップを作り、実際にそれらの生き物を当館の外でも観察できるようにする。

本研究では、当館の来館者が、どのような生き物のことを知りたいかを把握し、当館周辺にいる生き物の情報を発信することを目的とした。

## 第1章 アンケート収集

### 第1節 アンケート作成

当館には様々な年齢層の来館者が訪れる。特に、小さい子どもを連れてご家族が多いので、大人から子どもまでどのような生き物が好きか、分かるようなアンケートを作成した（図1）。

アンケートの内容は、「性別」、「年齢」、「好きな昆虫はありますか？」の3つで、「性別」の項目は、男の子、女の子、未回答で回答できるようにした。「年齢」の項目は、10代以下、20代、30代、40代、

50代、60代以上の6つの中から回答できるようにした。「好きな昆虫はありますか？」の項目は、「はい」、「いいえ」で答えてもらい、「はい」と答えた方には追加で、好きな昆虫を記入してもらう形式をとった。また、ダンゴムシやクモなど昆虫以外の虫を間違えて回答しないように、赤字で注意事項を設けた。

**アンケート**

宮崎文化振興協会の研究事業「大淀川学館館内田圃に生息する生き物の効果的な情報発信について～来館者のニーズに合わせた生き物マップ作成を通して～」で意見調査を行っています。下記のアンケートにご協力をお願いいたします。  
※このアンケートは研究事業以外には利用しません。

①性別 男の子 女の子 未回答

②年齢 10代以下 20代 30代 40代 50代 60代以上

③好きな昆虫はありますか？（はい いいえ）

「はい」と答えた方は昆虫の名前を教えてください（ ）

※クモやダンゴムシは昆虫ではございませんので除外します

アンケートにご協力いただきありがとうございます。

図1. アンケート用紙

上記で作成したアンケートを館内にいる方に呼びかけて、回答してもらった。アンケートをとった場所は、昆虫を展示していない「サカナのへや」で行った。

当館では、夏の来館者数が冬の来館者数の2倍以上であり、夏に企画展「カブトムシ・クワガタムシ展」を開催している関係で、アンケート結果のほとんどがカブトムシとクワガタムシになる恐れがある。そのため、夏と冬の2回に分けて、アンケートを実施した。

今回集計したアンケートは、夏と冬ともに105人の計210人に実施した。夏は、好きな昆虫は、カブトムシ、クワガタムシ、チョウの順番に多く、好きな昆虫がいないと回答された方は、男性1人、女性9人の計10人だった。冬も、カブトムシ、クワガタムシ、チョウの順番で多く、好きな昆虫がいないと回答された方は、男性7人、女性15人の計22人だった。

好きな昆虫は、夏と冬ともに、カブトムシ、クワガタムシ、チョウが多いことが分かった（図2）。また、カブトムシとクワガタムシの割合は、冬よりも夏の方が多く、カブトムシ・クワガタムシ展の影響だと考えられる。

好きな昆虫がいないと回答した方が、夏よりも冬の方が多いことから、冬に来館した方は、昆虫を目当ての方が少ないのではないかと考えられる（図3）。

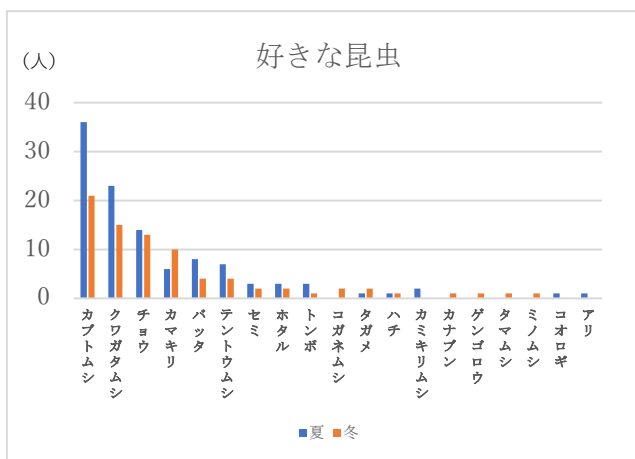


図2. 好きな昆虫

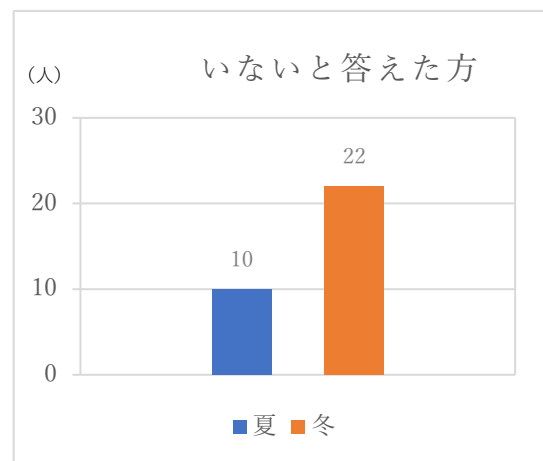


図3. 好きな昆虫がいない

## 第2章 昆虫採集

### 第1節 採集

昆虫を採集する方法として、今回は「ルッキング」で昆虫を採集した。

ルッキングとは、見つけた昆虫を採集するといったシンプルな採集方法で、短い時間で行えるためこの方法を採用した。

採集する場所は、当館周辺で、来館者が利用できる場所に絞り、第2食草園(図4)、池周辺(図5)、本館周辺(図6)、里山の楽校(図7)の4つのポイントで採集した。



図4. 第2食草園



図5. 池周辺



図6. 本館周辺



図7. 里山の楽校

## 第2節 種の同定作業

採集した昆虫は、写真に撮り、採集日を記録した。同定方法は、図鑑を用いて行い、同定が困難な昆虫は、日高主幹兼業務係長に協力をお願いした。

## 第3章 昆虫目録

### 第1節 目録

今回の調査では、合計 31 種の昆虫を確認することができた。場所ごとの内訳は表 1 のとおりである(表では 41 種だが、同種を含むため 31 種)。

表 1

場所 \ 目	チョウ目	トンボ目	バッタ目	カマキリ目	コウチュウ目	カメムシ目	ハチ目
第2食草園	4	1	1	1	2	1	1
池周辺	0	13	0	1	0	0	0
本館周辺	2	0	2	0	3	3	0
里山の楽校	2	2	0	1	0	0	1

今回は「ルッキング」により採集したため、トンボ目が他種よりも多い結果となった。

## 第2節 トンボ目による環境の把握

今回の採集で多く見つけることができた、トンボ目で環境を調べた。当館の池周辺で同定したトンボ目は、13種（トンボ科10種、ヤンマ科2種、イトトンボ科1種）であった（表2）。他にも、採集はできなかったが、目撃したトンボは4種いた。

調査したトンボは、主に沼や溝川、水田等に生息するトンボが多く見られた。また、ヨツボシトンボ（図8）は宮崎県準絶滅危惧種に指定されており、希少性があるトンボも見つかった。

このことから、当館の池は流れが緩やかで、植生が多く明るい環境だと言える。

表2. 池で同定したトンボ

トンボ科(10種)
オオシオカラトンボ
コシアキトンボ
シオカラトンボ
ショウジョウトンボ
チョウトンボ
ナツアカネ
ベニトンボ
マユタテアカネ
リスアカネ
ヨツボシトンボ
ヤンマ科 (2種)
ギンヤンマ
サラサヤンマ
イトトンボ科 (1種)
リュウキュウベニイトトンボ



図8. ヨツボシトンボ

## 第4章 館外マップ

### 第1節 マップ作り

今回、採集した4つのポイントを「本館から池周辺」と「里山の楽校から第2食草園」の2つに分けて作成することにした。

作成するにあたって、名札付きの木や目印になるもの等をまとめ、Googleマップを参考にしながら、オリジナルマップを作成した。マップは当館の事務補助に作成を依頼した（図9、図10）。



図9. 本館から池周辺

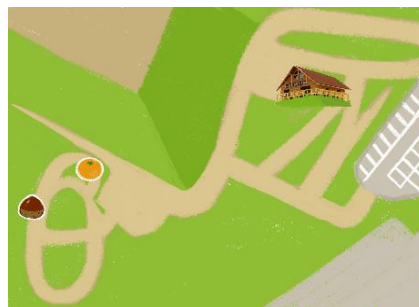


図10. 里山の楽校から第2食草園

## 第2節 マップの活用法

今回は、マップ作成までしかできていないため、今後の活用法について記述する。

当館の観察ステーション内に設置しているホワイトボードを活用して、新たに作成したマップを貼ることにする(図11)。マップは、季節ごとに外で見つけた生き物を写真や絵を貼り、来館者が見て分かりやすいようにする。また、二次元コードを読み取ることで、その生き物の特徴や生活史など様々な情報を見られ、生き物について学べるようにする。



図11. ホワイトボード

## おわりに

今回の研究で、冬の来館者は昆虫の展示を目的として、来られていないことが分かった。また、夏冬関係なく、カブトムシとクワガタムシが好きな来館者が多いことも分かった。採集に関しては、アンケートと並行して記録したため、ニーズに沿った昆虫の探し方ができなかった。今後、マップを活用する際、生き物についての知識が個人で研究を進める上では、分からないことが多いため、技師など他の職員の協力を得ながら進めていこうと思う。

今回は、マップ作成までしかできておらず、本格的な利用については来年度からの実施になるので、今回のアンケートで得た情報をもとに、マップを活用していきたい。

最後に、種の同定作業やマップ作成に協力して下さった当館職員に感謝を申し上げます。

## 参考文献・参考資料リスト

- 1) 三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生動物、2020
- 2) 日高謙次、平成30年度宮崎文化振興協会研究報告書、大淀川学習館「里山の楽校」「水辺の楽校」の昆虫生息調査とその展示方法について、2019
- 3) 福田晴夫ほか著、増補改訂版・昆虫の図鑑 採集と標本の作り方、南方新社、2009